

## N1 第 39 课 古典文学爱昆虫的千金 1 (课文)

たいていの女性は、毛虫なんか大嫌い。桜の木から毛虫がポトッと肩の上にでも落ちてこようものなら、ギヤアと恥も外聞も忘れて大声でわめく。でも、あの毛虫を手のひらにのせ、愛撫してじっと観察する姫君がいました。それが、「虫めづる姫君」の主人公。実在の人物をモデルにした話と言われています。この姫君は、当時の人々からはもちろんのこと、後世の読者からも変人扱いされ、あげくのはては、その変態ぶりに「萎黄病」という病名まで付して病気の烙印を押す人もいます。

(山口仲美『日本語の古典』岩波書店による)

大部分女性都特別讨厌毛毛虫。毛毛虫从樱花树上掉落到肩膀上,(女性们)马上就会大声尖叫,忘了羞耻和体面。不过,有一位大户人家的小姐,会把毛毛虫放在手上爱抚,还目不转睛地观察。那就是“喜爱虫子的大小姐”的主人公。据说是真实的人物为原型的故事。这位大小姐不仅被当时的人们,还被后世的读者看作是怪人,最终,还有人给她附上了一个“萎黄病”的病名,给她的变态打上了烙印。